

財政検証ホームページの更新及びリニューアル業務

マンガのリニューアルに関する進捗報告

提案内容の要旨

<将来の公的年金の財政見通し（財政検証）について>

● 2019(令和元)年財政検証結果のポイント

- ① 経済成長と労働参加が進むケース（ケースⅠ～Ⅲ）では
 - マクロ経済スライド終了時に、所得代替率は50%以上を維持
 - マクロ経済スライド調整期間において、新規裁定時の年金額は、モデル年金ベースでは物価上昇分を割り引いても増加
 - ② 経済成長と労働参加が一定程度進むケース（ケースⅣ・Ⅴ）では、
 - 2040年代半ばに所得代替率50%に到達する。
 - マクロ経済スライド調整期間において、新規裁定時の年金額は、モデル年金ベースでは物価上昇分を割り引いても概ね横ばいないし微減
- ⇒経済成長と労働参加を促進することが、年金の水准确保のためにも重要
- オプション試算A（被用者保険の更なる適用拡大）
※適用拡大を125万人、325万人、1,050万人の3つのケースで試算
- ⇒適用拡大は、所得代替率や、基礎年金の水准确保に効果が大きい。
- オプション試算B（保険料拠出期間の延長と受給開始時期の選択）
- ⇒就労期間・加入期間を延長することや、繰下げ受給を選択することは、年金の水准确保に効果が大きい。

● 前回と異なる点

- 経済前提が6 ケースあること（平成26年財政検証では8 ケース）
- オプション試算内容は、平成26年財政検証のそれと異なること
- 平成26年財政検証とは異なり、従来モデルがないこと

これまでと大きく異なる点も多く、結果もオプションのケースによるかけ合わせなどがありより複雑になる。財政検証そのものについての理解と2019年検証結果を分かりやすく示す必要がある。

<Webマンガについて（年金検討会議事録より抜粋）>

- 難しいことを分かりやすくしようとし過ぎて、一個一個は理解できるが、全部合わせたときにどう理解しているのか分からないということもある
- 本コンテンツは、たくさんの情報を詰め込んでおり、教育的な意味合いが強い情報伝達である
- 今、漫画を若い人が読むときにいろいろなチャネルを利用しており、それに対応する必要がある
- 読み手の関心を変えて、より自分事化する言い方が重要では
- 漫画自体のところもちろん見るが、その下に細かい補足の説明がついているので、それはかなり、若干細かくはなるけれども、すぐく参考になる
- 最初の部分が一番伝えたいメッセージ、意義とかというところ
- 財政検証が若干難しいので、リニューアルするときにより伝わるような工夫はしていただきたい
- 今の若い人に「世代間扶養」というメッセージは負担。魅力的な「投資」と訴求する方向と、どちらにするか1本化を図った方がいい

マンガで伝えるというアプローチは外部の評価も非常に高く、活用されているため、その利点を活かしつつ、今の若者の利用チャネルや心情に沿った表現に改編する必要がある。

若年層を中心とした国民に、公的年金の意義と制度の理解を促しつつも最新の情勢に即して情報の更新とコンテンツのリニューアルをしっかりと行うことで本サイトの意図が正しく伝わるよう、さらなる利用促進を図っていく。

マンガのリニューアルにあたり

目的

若者をはじめとした国民により分かりやすく共感してもらえるようなコンテンツとなるようにマンガをリニューアルすること

内容

- 既存のマンガのセリフやコマ割等のみの変更ではなく、次ページ「マンガのリニューアル案」の内容が伝わるようにマンガのストーリーを1から考え、ネーム(ラフな絵でマンガのコマ割りやセリフ、キャラの配置を描いたもの)の作成を行う
- 各話の初めに伝えるべきメッセージを簡潔にまとめたプロローグを設ける等、より分かりやすくメッセージの伝わりやすいコンテンツとなるように改善する
- 読者に不快な思いを与えないように十分配慮する
- キャラクターについては、2021年度に変更予定であること



上記を踏まえ、マンガのネームあたっては、以下のような留意・工夫が必要であると考えます。

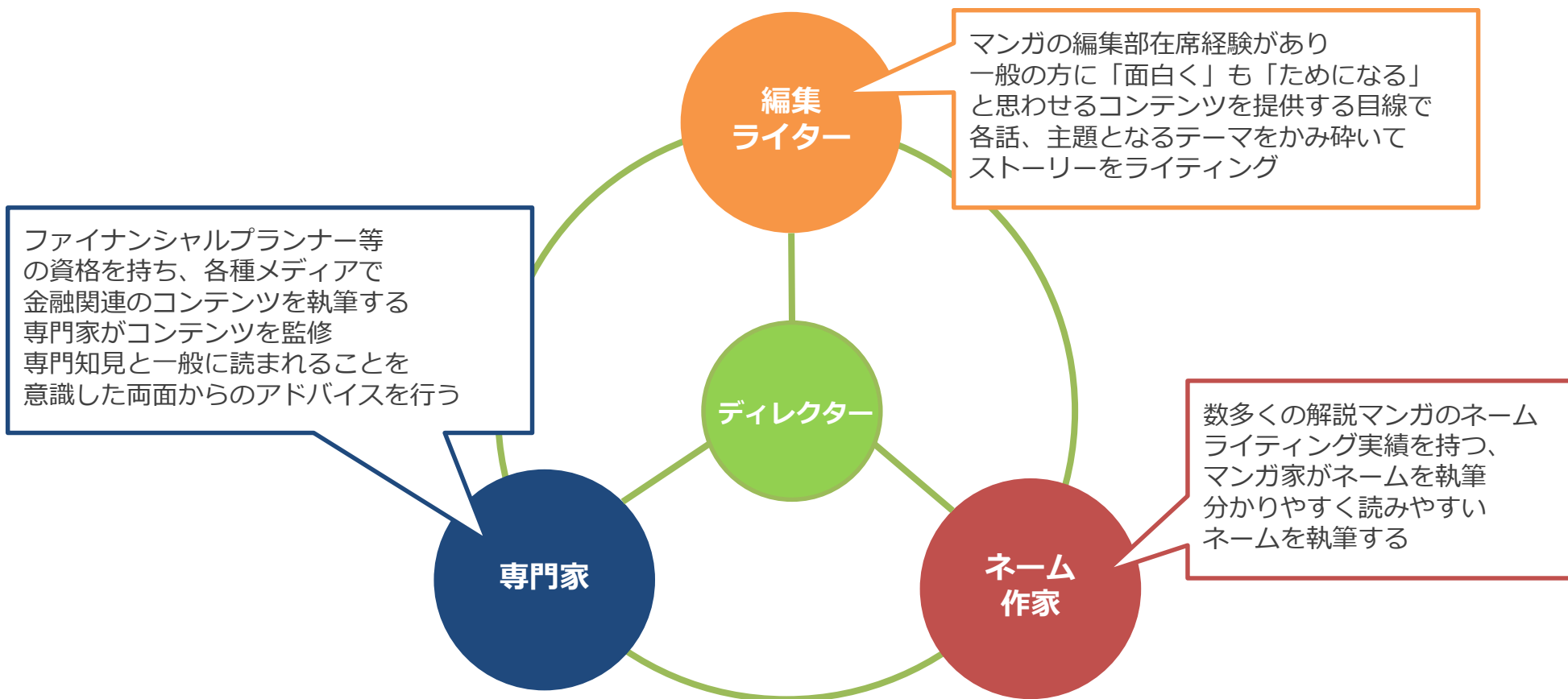
① 年金制度の理解及び世間の年金についての認識に配慮した観点からストーリーを設計

② マンガとしても面白く、分かりやすい内容と制度の説明のバランスが取れたコンテンツ設計

マンガのストーリー制作について

① 年金制度の理解及び世間の年金についての認識に配慮した観点からストーリーを設計

マンガのストーリー作成にあたっては、下記のような編集チームを組み様々な知見をもとにストーリー開発を行います。それぞれの役割で専門知識を発揮し、物語の背景や記載内容について決定していきながらもディレクターが内容を1本化して取りまとめを行うことで、一貫性のある内容に仕上げます。



② マンガとしても面白く、分かりやすい内容と制度の説明のバランスが取れたコンテンツ設計

<既存マンガについて>

Point1.

公的年金 のこと、どのくらい **知って** いますか？

私たちのときにも
公的年金はちゃんとあるの？

誤解

大丈夫です！

公的年金は、長期的に収支のバランスが
取れる仕組みになっています。
ちゃんと検証もしていますよ！

年金の仕組みや将来の見通しを
図解・マンガで分かりやすく解説します。

様々な登場人物が年金についての疑問や誤解を持ち
それを1人の専門家が解説していく分かりやすいストーリー

Point2.

公的年金の意義



日本の公的年金
は「2階建て」



年金積立金
の見通し



1話から順に読み進めることで、基礎的な情報から順番に
理解を促す連載型のストーリー。読み進めるごとに理解が深まる

<より分かりやすいコンテンツの表現案>

- 主人公は全話共通で1人に絞り、よりキャラクターとして親近感を感じてもらえるような設計とする
- 1話完結型で、毎回別の周辺の人々が登場し多様な暮らしぶりに対応できるようにする
- 各話のテーマに合わせて冒頭に「疑問 (Q)」を挿入し、その回で伝えたいことをサイトに「回答 (A)」としてまとめる
- 年金について解説するのは、属性により発言にネガティブな意味を持たれないような動物など人以外を立てる

全12話の設計

(全体の設定)

- 主人公は将来設計の無い社会人4年目の「ゆいちゃん（26歳）」
- 実家暮らしで猫を飼っている
- 友達や家族と話していると、自分の未来や無知さに不安を感じる
- 不安になるといつも飼い猫の「ミーコ」に話を聞いてもらう
- すると、飼い主の将来設計の無さや無知さに呆れて、ミーコがいろいろと解説しだす（いきなりしゃべりだす）
- 各回に応じた登場人物のエピソードに応じて、疑問を持った主人公が飼い猫のアドバイスを得ながら疑問を解決していく
- 徐々に年金の仕組みを理解して、いろいろな周りの人を助けていくようになるゆいちゃんの成長を描く

(登場人物)

主人公：26歳の会社員女性

独身、実家暮らし、一般企業に勤務。お金にズボラ、散財しやすい（計画性なし）、好奇心旺盛、面倒くさがり、祖父母思い
※厚生年金加入、ただしDeCoなど他の資産づくりはしていない

家族構成：

- **お姉ちゃん（30歳）** 既婚者、子供あり
- **お父さん（60歳）** 会社員（平均的なモデル世帯の世帯主）
- **お母さん（57歳）** 40代前半まで専業主婦、45歳になりパートとして働きに出る（今は扶養内130万円以内で働く）
- **おじいちゃん（80歳）**・**おばあちゃん（78歳）** 年金暮らし

友人関係

- 友人A（主人公の親友）
 - 友人B（非正規（アルバイト）／国民年金加入者）
 - 友人C（幼馴染／子持ち）
- ※その他、友人の子どもや周辺の人物が登場予定

各話の構成案（1話～6話）

※下記内容は制作途中のものであり、今後の進行で変更になる場合がございます。

	タイトル案	前回版	リニューアル後	今回のマンガで打ち出すメインメッセージ		登場人物	シーン
				Q	A		
第1話	はじめに	<ul style="list-style-type: none"> 当該マンガでは、公的年金や財政検証についてわかりやすく解説している。 	(変更なし)	老後のこと、(万一の保障)すべて自分で備えなければいけないの？	人生の大きなリスクをカバーする「公的年金」があることをまず意識しよう！	主人公(※導入部分は友人2人ほど登場させる)	冒頭は友人たちとカフェ。その後自宅の自室でネコと話す
第2話	公的年金の意義	<ul style="list-style-type: none"> 公的年金は預貯金と違い想定外のリスク(不確実性)に対応できる。 	(変更なし)	年金は老後のためっていうけど貯金しておけばいいよね？	公的年金は貯金ではなく、リスク(不確実性)に対応するための保険。貯金だけでは想定外の出来事に対応できないかもしれない。	主人公と友人A(主人公の親友)	友人とショッピングを楽しんで、帰宅してネコと話す
第3話	公的年金制度の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 自分で両親や親族を養うのが私的扶養。 高齢者や障害者への支援を社会全体で負担するのが社会的扶養。 ライフスタイルや家族構成の変化によって、私的扶養が次第に難しくなってきた。 公的年金は社会的扶養の考え方をベースにしている。 	(旧2・3話を統合)	もし年金がなかったらどうなるんだろ？	「私的扶養」だと長生きした人やその家族が大変になるかもしれない。	主人公、父母、祖父母	祖父母宅で、祖父の米寿(88歳)の誕生日を家族みんなで祝う
第4話	日本の公的年金は「2階建て」	<ul style="list-style-type: none"> 国民年金は日本国内に住む20歳以上60歳未満の全ての人加入し、厚生年金は会社などに勤務している人が加入する。 国民年金の保険料は原則として全員が同じで定額であり、厚生年金の保険料は収入に対して定率で額は収入に応じて変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公的年金の所得再分配機能により、現役時代の所得が高いほど所得代替率は低くなり、所得が低いほど所得代替率が高くなる。(9話より移植) 	公的年金にはどんな種類があるんだっけ？	公的年金は「2階建て」。「1階」の基礎年金はきちんと納付していれば全員が同額を受け取る。会社員や公務員は、「2階」の現役時代の所得に比例した厚生年金も受け取る。	主人公と友人B(主人公と同年代でアルバイトから正社員になりたい子)	主人公の自宅。友人Bが遊びに来て正社員になりたい」と相談を受ける主人公
第5話	賦課方式と積立方式	<ul style="list-style-type: none"> 保険料を、そのときの年金受給者への支払いに充てるのが賦課方式。 保険料を、自分が将来受け取る年金として積み立てておくのが積立方式。 賦課方式は急激な物価変動などのリスクを避ける特徴がある。 公的年金の財政方式は、賦課方式を基本とし、積立金を活用している。 	(旧5・6話を統合)	払った保険料はどう使われているの？	原則として、その年の現役世代の所得からなる保険料をその年の年金の給付に回すことで、安定的な給付を実現している	主人公と友人A(親友)	友人Aが主人公の自宅に遊びに来て、郵便物が届いていることに気づく
第6話	積立金の役割	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進んで保険料収入が減っても、積立金を活用することで安定した給付ができる。 年金積立金の運用はGPIFによって行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 賦課方式を基本とした財政方式における積立金の役割を追記する。 特に、積立金が財源に占める割合が約1割であり補助的なものであること、積立金は主に将来世代の給付水準の確保のため活用されることを解説する。 	何のために積立金があるの？	少子高齢化がさらに進んだときに積立金は給付を補う役割を果たす予定	主人公と友人A(親友)	(6話と続き物に)

各話の構成案（7話～10話）

※下記内容は制作途中のものであり、今後の進行で変更になる場合がございます。

	タイトル案	前回版	リニューアル後	今回のマンガで打ち出すメインメッセージ		登場人物	シーン
				Q	A		
第7話	財政検証とは	<ul style="list-style-type: none"> 以前まで行われていた財政再計算は、給付水準を維持する場合に必要な保険料を算定するもの。 平成16年に、固定された財源の範囲内で給付水準を自動的に調整することで、給付と負担の均衡が図られる財政方式に変更。 ⇒財政再計算という言葉は用いずに、給付を固定するのではなく保険料の方を固定するようにしたことを説明する。 財政検証では、将来の収支見直し等を作成し、公的年金財政の健全性を検証している。 	<p>（従来の内容に以下を追加。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2004年改革の財政フレームの解説に加え、財政検証における財政の健全性とは、給付水準の十分性を検証していることを明確化する。 マクロ経済スライドが世代間に分かち合いの仕組みであり、将来世代の給付水準の確保のための仕組みであることを追記する。（11話より移植） 	<p>少子高齢化が進むと保険料率をもっと上げないといけないの？</p>	<p>これ以上保険料率は上げない予定。 そのかわり、緩やかに給付水準を調整していく仕組みが導入された。その保険料（と積立金）の範囲でどれだけの年金を支払えるか見直しを定期的に確認している。</p>	<p>主人公と友人C（幼馴染/子持ち）</p>	<p>幼馴染と近所で遭遇する→立ち話で廃校について話す→主人公家に帰る（ネコと話す）</p>
第8話	財政検証の重要な要素は？	(新規)	<ul style="list-style-type: none"> 財政検証の前提として、人口、労働力、経済が重要であることを解説する。 将来は不確実なため、前提については良い場合から悪い場合まで幅広く設定しており、結果も幅広く捉える必要があることを解説する。 どのケースが当たるかではなく、今後どのような方向に進むべきかを読み解くことが大切であり、そのような観点でみると、労働参加を進め経済を成長させることが重要であり、年金制度についてもより長く多様な形で働く社会に対応していくことが重要であることを解説する。 	<p>財政検証って何を検証してるの？</p>	<p>より多くの人が働き、経済を成長させれば、私たちが受け取る年金も増える</p>	<p>主人公と母（父もいてもいい）</p>	<p>自宅。財政検証について興味を持った主人公。厚生年金に加入しようか悩んでいる母と話をする</p>
第9話	公的年金の給付水準	<ul style="list-style-type: none"> 公的年金の給付水準は、所得代替率（給付開始時における年金額の現役世代の手取り収入に対する割合）で考える。 	<p>（従来の内容に以下を追加。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 給付水準は現役世代の賃金との相対的水準を示す所得代替率と購買力を示す物価で割り戻した年金額の2つでみていることを解説する。 	<p>わたしたちは年金をいくらもらえるの？</p>	<p>遠い将来においては、年金の金額そのものにはあまり意味がないかも。財政検証では現役世代の賃金に対する「所得代替率」と現在の物価に換算した「年金の実質価値」の2つをシミュレーションしている。</p>	<p>主人公と友人A（親友）</p>	<p>カフェでランチをしながら、最近年金に詳しくなってきたと話す主人公。しゃべってたらネコが突然現れる（間違いを正しに飛んでくる）</p>
第10話	少子高齢化の影響	(新規)	<p>（当初提案では、9章に追加するとしていたもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> マクロ経済スライドにより、所得代替率は低下するが、実質賃金が上昇すると年金の購買力は必ずしも低下しないことを解説する。 （当初10章で説明することが提案されていたもの） 少子高齢化の見直しに加え、その影響はマクロ経済スライドで吸収することを追記する。 数字を示して少子化の所得代替率への影響を解説する（扶養負担比率の変化（約4割減）に対して、労働参加率の上昇と積立金の活用により所得代替率が2割減となっていること等）。 	<p>少子高齢化が進むことを考慮すると、将来の「所得代替率」や「年金の実質価値」はどう変わっていくの？</p>	<p>「所得代替率」は2割程度減の見直し。ただし、現役世代の賃金が上がれば「年金の実質価値」はそれほど減らないかもしれない。</p>	<p>主人公と友人A（親友）</p>	<p>（第9話の続き物）</p>

各話の構成案（11話・12話）

※下記内容は制作途中のものであり、今後の進行で変更になる場合がございます。

	タイトル案	前回版	リニューアル後	今回のマンガで打ち出すメインメッセージ		登場人物	シーン
				Q	A		
第11話	世代間格差の正体 →年金を通じた世代間のつながり	<ul style="list-style-type: none"> 世代間格差を年金だけでみるのではなく、公的年金のメリットである生涯にわたる安心に目を向けることが大切である。 日本経済が大きくなれば、給付水準が大きくなる。 	<p>（従来の内容に以下を追加。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代間格差を年金だけでみるべきでないことについては、若年世代に理解を得るよう説明方法を工夫する（例えば、私的扶養の他に教育、社会インフラ、相続等の違いを取り上げる。）⇒あまり世代を比較してどちらが良いか悪いかを論じても仕方がなく、自分たちの世代がより働きより多くの保険料を払うことは、自分たちの給付を増やすことにつながることを強調すべきではないか 	今の高齢者の年金を支えるために、現役世代はもっと働かなきゃいけないの？	より多くの人が長く働ける社会を作れば、将来の自分たちの年金を充実させることができる	主人公と姉（とその子供） or 友人C	自宅のリビング
第12話	これからの年金制度	<ul style="list-style-type: none"> 年金制度が変わったら将来の姿がどうなるかを見るための試算をオプション試算という。 3つのオプションのどれもが、将来の給付水準を確保する上でプラスになることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年財政検証のオプション試算内容を紹介し、平均寿命の延びに伴い、少しでも長く就労すれば貰える年金が増えることを解説する。 平均余命が伸びる中、長く働き受給開始を遅らせることで所得代替率の低下を補うことが可能であることも解説する。（10話より移植） 	年金制度はいまの仕組みがベストなの？	より多くの人が（厚生年金に入って）長く働き、より年金受給額を増やしやすいくみに変えていくことを検討している。	主人公	自宅の自室

P2



P1

